

第 2 回 洞爺湖町部活動地域移行検討委員会
会 議 録

令和 7 年 3 月 25 日 開催

第2回 洞爺湖町部活動地域移行検討委員会				
招集年月日	令和7年3月25日			
場 所	洞爺湖町役場3階 302会議室			
開会閉会の 日 時	開 会	令和7年3月25日 午後6時00分		
	閉 会	令和7年3月25日 午後7時00分		
委 員 員 出席 8 名 欠席 2 名	委 員 長	木村 省平	社会教育委員	☐ ・ ☐
	副 委 員 長	舘岡 恵一	スポーツ推進委員	☐ ・ ☐
	委 員	内山 勇一	洞爺中学校長	☐ ・ ☐
	〃	鈴木 恭朗	虻田中学校	☐ ・ ☐
	〃	矢野 雅倫	体育協会	☐ ・ ☐
	〃	因幡 義人	スポーツ少年団	☐ ・ ☐
	〃	永井 宗雄	洞爺湖町文化団体協議会	☐ ・ ☐
	〃	村上 詠美	とうや文化協会	☐ ・ ☐
	〃	長谷川 尊裕	虻田中学校 PTA	☐ ・ ☐
	〃	富田 国芳	洞爺中学校 PTA	☐ ・ ☐
	〃			
	〃			
	〃			
	教育長	渋川 賢一		☐ ・ ☐
	参 与	山本 恵一郎		☐ ・ ☐
	課 長	角田 隆志		☐ ・ ☐
	補 佐	高木 淳市		☐ ・ ☐
	係 長	黒澤 博美		☐ ・ ☐
	主 任	汐後 康彦		☐ ・ ☐
	主 事	濱塚 圭太		☐ ・ ☐
会議次第	1、教育長あいさつ 2、委員長挨拶 3、議案 第1号 洞爺湖町部活動地域移行推進計画について 4、その他			
承認結果	上記議案について、原案のとおり決議されました。			
会議次第	1.開会 (1)挨拶（教育長挨拶） (2)挨拶（委員長挨拶） 2. 議案 洞爺湖町部活動地域移行推進計画について（事務局より資料に沿って説明）			

	虻田中学校長 （虻田中学校の部活動等の現状の説明） 洞爺中学校長 （洞爺中学校の部活動等の現状の説明） 【意見・質問】 A 委員 令和 10 年頃には地域移行をするため、今後の方針として何かを決めながら、地域の方も巻き込んだ中で進めると思いますが、そこへ向けての具体的なスケジュールをお聞きしたい。 事務局 推進計画の方にも示していますが、個別に進めることになるかと、例えばサッカー部については、部員が確保できる状態が今年で終わるとすれば、早期にクラブ化する必要があります、3 町で募集となる状態ですし、それぞれの部活動の事情によって進め方も変わっていくと判断します。 課題はあるものの令和 9 年度を目指すという形で、地域クラブの完全クラブ化を目標にしたいとは思っています。 A 委員 指導者等の問題についてですが、町内の文化団体・スポーツ団体はたくさんありますが、自分たちの趣味のためにやっているスポーツクラブとか文化クラブが多いと思いますので、そこに指導者もお願いするのは大変なことでしょうし、受け皿を作らなければと思います、その辺についてはどういう見解を持っていますか。 事務局 子どもたちを地域で育てるという趣旨を皆さんにご理解いただいて、子どもたちの面倒を見ていただけるような体制作りを働きかけていきたいと思っております。 指導者としてまず候補にあがるのが町内の方、それから 3 町に広げ指導者を見つけてお願いしたいという考えです、今後、早急に詰めていきたい。 それには、文化団体、スポーツ団体との協議の場が必要だと思っております。 B 委員 登別市も、サッカーや野球が単独でチームが作れないというようなところから合同化し、指導者については引き続き学校の先生にお願いしている状況。 実際には指導者の確保は、市であっても大変だと思います、現実問題としては先生が継続指導しているところです。 ソフトテニスもクラブ化していますが、現役の教員、教育委員会のテニス協会の方などが手伝い、教育関係者の方で固めているという実情です。 伊達市でも同じような状況だと思います、先進地でいうところの、長崎あたりだと、大学生がボランティアで毎日指導できている実例があるそうですが、通常は勤務を抱えている方が部活指導することは容易ではありません、問題はそういう人材を見つける環境もなかなか揃っていないこと。 退職後の校長先生等も協力くださってはいますが、子どもたちにしてみれば、若い先生の体を張った技術を見て感動するというのもあるので、そのようなところを伝えたいっていうのはあり、若い指導者の確保という観点も大切と感じます。
--	---

A 委員	昔、虻田高校には指導者もあり、チームとしてもバレーボール部は相当強かった。そういう卒業生が、こちらに帰ってきたりとかしていないのでしょうか。
事務局	バレー部に関しては、ほぼ札幌から来た学生で寮生だったため、地元の方はほぼいなかったの、戻ってくることはないかなと思います。
C 委員	私達が中学校の頃は、入学した時点で多くの部活動の中から選択する形があったのですが、地域移行になったときに、子供たちが選べるシステムはどうなるのかなと思います。 例えば虻田中学校であれば、サッカー部やバレーボールがなくなる場合にはバトミントン部と吹奏楽しかなく、文科系はいろいろ受け皿があるとしても、学校から生徒たちへ周知できないと、何ができるかわからない状況だと思います。 私は、習字とテニスを連名でやっており、テニスも中学生と練習が可能ですが、現在はそのようなことはありません。 習字も受け入れることが可能ですが、テニス同様部活としてつながっていないので、そういうところを町としてはどのように令和9年から考えているか。
事務局	今ある部活をどうするかということを優先して考え、その他、選択肢をどれだけ広げられるか協議しながら進めていく必要があると思っています。 予算の問題と事務局の体制、全体の地域クラブの体制を固めていこうと考えています。 ゆる部活動もご紹介させていただきますが、スポーツでも文化でもいろいろな体験をしながら、興味のあるものをさらに深めていければとも思っています。 例えば、毎週、土曜日はサッカー、別の日は習字というのができればいいなと思っていますので、段階的に進めていくことになると思っています。
A 委員	段階的に時間がかかると、そのときは、もっと子どもの数が減ってしまうのではないかな。
B 委員	仮に団体スポーツの需要がないというスタートが切れるのであれば、全部、個々でいいのであれば、地域の習い事のように、自分で好きなものを選択するといいと思うのですが、現実問題としては、団体で何かやりたいとか団体スポーツを求めているということ、あと人数の規模を考えれば、次年度虻中は 100 人を切るの、部活動を数多く維持するわけにはいかなく、四つでも、やっと確保する状況です。
A 委員	今の部活を何とか地域移行に向けた中で、C 委員からあったように選択の余地も残るように並行して考えていくことが大切、もちろん同時にできれば一番いいですが、段階的に進める中で、現在より各学校の生徒が減り、部活がなくなるような状況も心配。 そういう意味では早い手を打たないとならない気がします。
D 委員	今、中学校の部活の加入割合は
B 委員	学校単独の部活では7割を切っていると思います。

D 委員	中学校に入って急に何か始めるというのは、なかなか意識しにくいので小学校まで裾野を広げて、その段階でも選択できるようなベースを作っておくことが必要かと感じます。 野球、サッカー、バレーボール、バスケットなどいろいろとやりたいと思うかもしれないので、そのベースを早く作らないと、上はどんどんなくなって、もう終わり、切れてしまうということが起こりうる。 今も、ユナイトは登別から指導者に来てもらってチームを存続しており、できなくなったら豊浦町の方に行くというのが前提です。 指導者の取り合いになるので、指導者も早く見つけ、底辺を作ってあげないとまずいというのが意見です。
事務局	バレーボール協会が、そのような裾野を広げる取り組みをしていて、22 日もバレーボール体験会というのをやりました。 少年団を復活しようか、できるかというようなところまできていますので そういう動きがあると私どもとしては非常にありがたい、地域の協力や団体のご協力のお願いを働きかけていきたいと思っております。
D 委員	何か、役場ばかり大変な思いをしているというのは本当に気の毒です。 地域から、こうしてほしいという声があれば、もっとスムーズにいくと思うのですが、なかなかそういう人は貴重な存在で、金銭の部分とか謝礼の部分というのがネックとなり、保護者が支出する際に決めた金額を、指導者の方はボランティアで何とかするのでと遠慮されるとか、お互いに申し訳ない感じです。 町も大変とは思いますが、金銭面を期待するわけでもないのですが、いずれにしても早めに進めていただきたいと感じます。
事務局	令和 8 年度からスタートしているところですが、正直なところ、一つでも形にできればいいだろうという感覚で、結局は、個別に一つ一つ、どういう形だったらできるか、どういうふうにしたら継続、持続できるかというのを実践していくしかないと思っています。 例えば、伊達市さんは予算が今年 2500 万、それから登別市さんは来年度 3500 万と聞いていますので、うちの町でも相当な額を予算化していかなければならないと思います。 予算の使途は、子どもたちの移動の部分、講師への謝金などです。 予算の負担の割合も近隣で揃えていかなければならない場合は、その金額を補償しなければならないという部分、それから運動の場合については保険加入、それから指導者の指導者講習会受講費用などの予算が必要になるのかなというふうに思っています、仮に 4 市町で行うなら、全部そこを統一、調整が必要です。 現在、教育委員会でも困っているのは人材不足です、地域移行を調整して固めていく職員が不足ということで、今回、新たに地域おこし協力隊を採用して、その人を中心にやっていこうというようなところ です。 各競技でも指導者の方は先生方に兼職兼業でお願いしていかざるを得ないだろうということも想定されますし、課題が山積みの中ですが、まずは一つだけでもいいから動かしてみ、どういう形であればうまく動くのか、そのノウハウを他の競技や文化活動に広げて

	いくということを手探りでやっていくこと、皆さんからもいろんなアイディアをいただきながら組み立てていくしかないなと思っているところです。
A 委員	今の事務局からも実情を踏まえた中で、いろいろお話いただきましたが、そのことも含めて、再度皆さんにご意見等求めますが、何かありますか。
C 委員	ソフトテニス連盟で週 2 回の活動をやっていますが、虻田中学校ではソフトテニス部がないので、うちのクラブに来てソフトテニスをやっても趣味としてで、部活としては認められないと思いますが、例えばそれが部活として認められるということになれば行きたいという子も、もしかしたらいるかもしれないです。 子どもたちが来ましたら丁寧に教えますし、一緒に練習もできるのですが、やはり部活として認められないから行かないということと周知不足で子どもたちは、テニス連盟があることももしかしたら知らないかもしれない。 ソフトテニス連盟があって、そっちに行ったら部活として認められるよというふうに中学校の方でも子供たちに知らせてあげられるようになればと思いますけどどうでしょうか？
B 委員	中体連に出るためには、地域クラブ化で町が認めたクラブを部活動に捉えるというような形が必要だと思いますので、今の状況では、そこはできないのです。 今の段階としては、学校としてはその習い事とかチラシなど持ってきていただいたら、そこは紹介することはできますし、何か資料など持ってきてくださいましたら、それに基づいて紹介をしますので、それは可能かと思います。
事務局	そういうご意見をいただいて、例えば地域クラブとして活動をしようとするときに、いろんなガイドラインのっとして、ご指導いただけるならば、ここは検討の余地があるというふうに思っております。 そういうご協力いただけるのは大歓迎ですので、そういうご意見を多数お寄せいただければありがたいですし、これが個別に進めて行くという事だと思います。 ただ楽しみたいっていうのも部活動ですし、それが大会に出たいとなったら、地域クラブ化という名前が必要になり、保険をどうするか、怪我したときのために保険をかける、指導者講習会を受けてもらった人には謝金を払うことができるなど、個別の話が出て来ます、そうやって声を掛けていただいて、声がたくさん出てくると、そこに少しずつ輪を広げていくことができると思うので大変ありがたいです。
A 委員	学校の方が積極的に子どもたちに、個別のクラブ活動を知らせるのはなかなか難しいかもしれませんが、例えばこんにちは社会教育の中に地域のスポーツクラブの紹介をして、子どもたちにも入れるということを周知することもできますね。
事務局	はい、受け入れが可能な地域クラブとか団体の紹介は、学校を通じてもできると思いますので、わかりました。

	3. その他 なし 4. 閉会
--	-----------------------